

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第79号(2013.10.1)  
事務局川西地区自主防災会

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社香川県支部 大林武彦

平素から赤十字事業の推進につきましては、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

赤十字は誰もが知っていると思いますが、しかしながら、活動を知っている方は多くないのが現状です。赤十字と言えば「病院」「献血」とイメージされるでしょう。でもそれ以外にも多くの事業を赤十字は行っています。



赤十字の活動は大きく9つに分けられます。

- ①国際活動
- ②災害救護活動
- ③医療事業
- ④看護師等の養成
- ⑤血液事業
- ⑥救急法等の講習
- ⑦赤十字ボランティアの育成
- ⑧青少年赤十字活動の推進
- ⑨社会福祉事業



この中でも特に柱とする活動は災害救護活動です。

日本赤十字社の災害救護業務は、次にあげる業務があります。

- (1) 医療救護
- (2) 救援物資の備蓄及び配分
- (3) 災害時の血液製剤の供給
- (4) 義援金の受付及び配分
- (5) その他災害救護に必要な業務（ボランティア、炊出し、こころのケア等）

また、香川県支部では救護班要員として、1班6人で8班の計48人を毎年任命し、いつでも災害時に出動できるような体制にあり、訓練、研修に努めています。

救護班編成基準	
区分	定員
班長	医師 1人
班員	看護師長 1人
	看護師 2人
	主事 1人
	自動車操作要員 1人
計	6人



さらに、当支部では、日本赤十字社国内型緊急対応ユニット dERU（大規模災害等が発生した時に迅速に被災地域に搬入できる自己完結型の緊急仮設診療所）を保有しています。

国内型緊急対応ユニット（dERU）チーム編成基準	
職種	定員
医師	2人（1人がリーダー）
看護師長	2人
看護師	4人
薬剤師	1人
助産師	1人
主事	4人（1人がサブリーダー）
計	14人

国内型緊急対応ユニット(domestic EmergencyResponse Unit。以下「dERU」という。)dERUとは、国内における大規模災害等で医療救護活動を行うことを想定した緊急仮設診療所設備とそれを輸送する車両及び自動昇降式コンテナと訓練された要員、そしてそれらを円滑に運用するためのシステムを総称したものです。

- 標準医療セット及び医薬品は患者 150 名/日× 3 日で外傷 60%、急性内因性疾患 20%、慢性疾患 20% を想定して設計されています。
- dERU チームの活動期間は1週間を目安とし、継続的な救護活動が必要とされる場合は、救護班がdERU チームと交代し救護活動を引継ぎます。
- 東日本大震災で香川県支部はdERU を初めて被災地で活用し、約1ヶ月救護活動に使用しました。



【dERU内で自衛隊と協働し処置を施す救護員（仙台市 霞目駐屯地内）】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、19:00にdERUチームを防災ボランティアリーダー1人を含め15名で被災地に向けて第1班を派遣しました。私はサブリーダーとして現地に赴きました。

現地に行く途中は錯綜する情報の中で、何度か目的地が変更になりました。

3月12日に福島県へ入ったときに原発事故があり、同県の田村市総合体育館に避難している被災者1500名に対して救護を実施し、24時間かけて患者を診ました。さらに北上し、宮城県の仙台市にある陸上自衛隊霞目駐屯地でSCU活動に従事しました。

SCU (Staging Care Unit) とは、ヘリで病院に搬送する患者の待機場所に設置される臨時医療施設であり、症状安定化のための処置等が実施されます。東日本大震災では、石巻市内で被災した患者を仙台市の霞目駐屯地にヘリで搬送し、日赤救護班等により安定化を図る処置を施し、消防隊員が、仙台市内の病院へ搬送しました。

香川県支部ではその後も救護班を13班派遣し、こころのケア班、石巻赤十字病院への病院支援要員等を含めると医師をはじめ136名を派遣し、約3千人の診療を行いました。



これらの日赤の救護活動は自己完結で行わなければなりません。食事、被災地までの交通手段、救護班の寝床、全て自分たちで行います。日頃から、医療救護の訓練やdERU取扱いの研修と併せて、幅広い分野で研鑽しています。

日本赤十字社では、医療救護班（総計896班）を派遣するなど、全社総力をあげ、被災者への救護活動を展開しつつ、また義援金募集にも取り組んできました。

県民の皆様からこころのこもった多くの義援金が届きました。ここにその義援金の報告を申し上げます。

日本赤十字社全体受付 平成25年 9月19日現在  
297万1,972件  
3,284億3,235万2,351円

●香川県支部受付 平成25年 9月20日現在  
13,762件  
16億3,124万3,989円

●義援金送金状況 平成25年 6月12日現在  
3,677億8,919万6,984円

※送金額は、日本赤十字社と中央共同募金の両団体合わせての金額になります。

日本赤十字社のホームページからご覧になれます。

<http://www.jrc.or.jp/index.html>

お寄せいただいた義援金は、全額が被災された方々のお手元に届けられ、手数料などを日本赤十字社がいただくことは一切ありません。

義援金の受付は、平成26年3月31日まで行っています。皆さまからの温かいご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きのご協力を、よろしく願いいたします。

また日本赤十字社は、赤十字の理念と使命に基づいて、安全で健康な生活を営む方法、人命を救うための知識と技術、豊かな高齢期を迎えるために必要な知識と技術などを「赤十字救急法」や「赤十字健康生活支援講習」などの講習を通して普及しています。

講習名	内 容	
救急法	<p>日常生活における事故防止、手当の基本、心肺蘇生の方法、AED を用いた除細動、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得など、ご要望に応じた講習を行います。</p>	
水上安全法	<p>香川県はため池が多く、海に面しています。水と親しみ、水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法などを学びます。 服を着たまま川や池に落ちた場合の対処方法について学ぶ「着衣泳」の講習も行っています。</p>	
健康生活 支援講習	<p>家庭内で行う介護等の方法を勉強します。誰もが迎える高齢期を、すこやかに迎えるために必要な健康増進の知識や高齢者の支援・自立に向け役立つ介護技術を学びます。 災害時に知って役立つ知識・技術の講習も行なっています。</p>	
幼児安全法	<p>こどもを大切に育てるために、乳・幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気と発熱・けいれんなどの症状に対する手当などを学びます。</p>	
非常食 炊き出し	<p>包装食袋（ハイゼックス）を使ったご飯の炊き出し方法・その他災害に役立つ知識、技術について学びます。</p>	

受講を希望される場合は、日本赤十字社香川県支部に電話・FAX・ホームページによりお申込み下さい。

また、当支部では、地域や職場等、県内各地で出前講習を開催することができますので、ご相談下さい。指導員を派遣いたします。

このほか、県支部では救援物資の備蓄、赤十字安全講習を県内各地で普及、紛争や病気等に苦しむ各国への支援等の事業を遂行しています。こうした様々な事業は、赤十字運動を物心両面から支えていただいている社員や寄付者のみなさまからお預かりした貴重な浄財により支えられています。しかしながら、厳しい経済状況を反映して、必要な財源の確保は一段と厳しさを増しています。

赤十字活動を積極的に展開し、「もっと身近で、もっと信頼される日赤」を目指し、赤十字事業への理解をより深めていただけるよう取り組みますので、今後とも赤十字事業の推進に一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 日本赤十字社 香川県支部

## Japanese Red Cross Society

〒760-0017 高松市番町1-10-35 TEL087-861-4618 FAX087-862-7010  
E-mail : jrckagawa@jrckgw.com  
ホームページ : <http://www.jrckgw.com>



パソコンから

ホームページで

日本赤十字社 香川県支部

検索

[www.jrckgw.com](http://www.jrckgw.com)

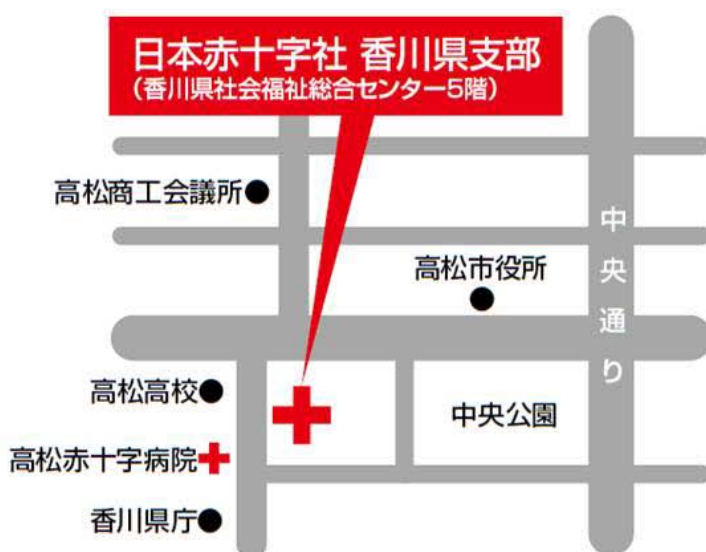


お電話で

ナビダイヤルで



0570-009595



### 内祝いや香典返しを…

長寿のよろこびや、全快祝い、金(銀)婚式記念、香典返しなどを「日赤の事業資金に」とご寄付をいただいています。ご協力いただいた方には感謝状または有功章を贈らせていただきます。

社費・寄付金には、感謝状制度や税制上の優遇措置があります。

## 観音寺市内各自主防災会の取り組み

### 豊浜町梶谷自主防災会

三世代交流事業のなかで防災訓練を取り入れました。おじいちゃん、おばあちゃん、おとうさん、おかあさん、子どもたちとの様々な交流たいへんよかったです。災害発生時には身近な人たちと連携した対策がもっとも有効であるため梶谷地区内を4班に分け各班毎に危険な場所、安全な場所、避難経路等を話し合い、また平成16年災害等をふまえ防災マップを作成しました。また、炊き出し訓練での「だんご汁」おいしかったです。次の訓練も計画していきたいと考えております。

訓練日時	平成25年9月14日(土)
訓練場所	南部集会場
訓練参加人数	100名
訓練内容	防災マップ作成、炊き出し(だんご汁)



【防災マップ作成】

## 吉岡町自主防災会

地域ぐるみで防災訓練を実施し、地域住民の絆を大切にし、安全安心で災害に強い地域の向上につとめております。

訓練日時	平成25年8月25日（日）
訓練場所	吉岡町自治会館
訓練参加人数	70名
訓練内容	地元一ノ谷消防団による防災講演会 人力による土のう作り・積み重ね方訓練 バケツリレーによる初期消火訓練 大釜による炊き出し訓練 吉岡町自主防災用の機材の展示



【みんなでバケツリレー】



【大釜による炊き込みご飯】

## 豊浜町道溝自治会防災会

- 平成12年に結成し活動したが、その年によって班長などが変わるため継続した活動ができない。そこで平成23年、病気等で活動できなくなるまで班員は止めない条件で再結成した。(自治会戸数 120戸、防災会班員 54名)
- 毎年、数多くの活動をするのではなく、防災力向上のため防災知識の普及、災害対応能力の習得を着実に進める。
- 素朴な疑問などに真剣に取り組む。
  - ・要援護者宅に救護担当がアプローチに行くと“あんただれなー”と言われたので、防災活動にも適したメッシュベストを購入。
  - ・防災会で災害対策本部はどんな状況になれば設置するのか、またどのようにすれば良いか?と不安の声に、災害対策本部設置訓練、情報収集・伝達訓練、初期消火訓練、要援護者への声掛け訓練などを実施。

訓練日時	平成25年7月7日(日)
訓練場所	道溝自治会館及び自治会区域
訓練参加人数	90名
訓練内容	地震災害を想定しての訓練 情報連絡・・・防災会の対策本部設置及び情報収集・伝達の流れを体験する訓練 消火・・・・・・・消防署に通報してもすべての消防車が不在を想定し、消火班員で消火栓を活用しての消火訓練 給食・給水・・・自動停止したガスメーターの復旧手順を体験、保存食を使つての調理手法体験



【総務班長より情報収集の指示】



【初期消火訓練】



## 原町仲原自主防災会

昨年に自主防災組織を結成し、今回の訓練は2回目です。訓練を重ねて災害に強い地域づくりを目指しています。

訓練日時 平成25年8月25日(日)  
訓練場所 仲原自治会館  
訓練参加人数 50名  
訓練内容 消防署員による地震防災の講話、心肺蘇生法・AEDの取り扱いを学ぶ、防災マップ作成、非常用保存食の炊き出し訓練



【防災マップ作成】



【心肺蘇生法・AED 取扱い訓練】

## 豊浜町西原自主防災会

西原自主防災会は、世帯数が24世帯とこじんまりとした組織です。防災訓練に関わらず何事にも一致団結し、取り組んでおります。訓練を通して災害発生時において落ち着いて対応することができるようがんばっています。

訓練日時 平成25年8月25日(日)  
訓練場所 西原自治会館  
訓練参加人数 25名  
訓練内容 避難・誘導訓練、防災研修(防災DVD視聴)  
水消火器による初期消火訓練



【水消火器による初期消火訓練】

# 事務局だより

平成25年10月

かがわ自主ぼうの事務局を担当している「川西地区自主防災会」最近の活動を紹介します。

川西地区自主防災会では、民間企業と連携した「地域の防災ステーション」第1号を設置しました。

これは、地区内で土木建材商品販売を手がける三和建鐵株式会社の厚意もあって、連携した防災への取組み第一弾として、社屋を活用した備蓄ステーションの地区第一号として設置。当面飲料水2ℓサイズ780本(130ケース)を備蓄、以後、カンパン等も収納する予定です。

